

践に努めてきた。

4 研究の概要

(1) 「学年（学級）の時間」とその活動内容

① 「学年（学級）の時間」のおさえ

ア 教育課程上の位置づけ

(ア) 基本的な考え方

学校の教育課程は、三領域から構成されている。したがって、本校の「学年（学級）の時間」も三領域の中に位置づけている。

- 本校の「学年（学級）の時間」は、この三領域の中の「特別活動」を中核として研究をすすめてきた。

- 本校の教育目標達成のため、特別活動の全体計画の中に主として位置づけられたものである。

(イ) 特別活動と「学年（学級）の時間」の基本的性格

- 本校の「学年（学級）の時間」の性格を次のようにおさえている。

- ㊦ 豊かな人間性を育てる時間
- ㊧ 自ら考え、自ら創り出す時間
- ㊨ 集団意識と連帯感を育てる時間
- ㊩ 体験を通して、満足感を得る時間
- ㊪ 自由で開かれた時間

すなわち、これらの時間のねらいは、人間性豊かな児童の育成であり、体験を通して満足感を得させながら個性の伸長を図り、集団意識と連帯感を育て、集団の一員としての自覚をより一層深めようとするものである。また自ら創り出すことは「特別活動」が「なすこと」によって学ぶ教育活動であることの一環であり、自由でのびのびとした心を育てようとするものである。

② 本校の創意を生かした教育活動の内容

本校で54年度に、すでに「学年（学級）の時間」を設定し、年間指導計画の余剰時間を利用し、研究をすすめてきたが、今回の学習指導要領の改訂で、各教科の標準授業時数の削減により、学校生活全体にゆとりをもち、学校の創意を生かした教育活動を行う時間が、ある程度確保できるようになった。55年度は、教育相談や体力づくりの活動と合わせて特別

活動を重視し、その一分野として「学年（学級）の時間」を日課表の中に位置づけてねらいの達成につとめてきた。

ア 教育相談と学級活動

㊦ ねらい

55年度の努力目標である「創意を生かし自ら学びとる児童の育成」のために、児童が自ら考え、学びとり、自由な表現活動を行う場として学級活動の時間を設定し、また、教育相談を通して、学業不振に対する児童の悩みの解決をはかり、問題行動についての早期発見、早期治療等、生徒理解を深めるようにしている。

㊧ 方法と内容

○学級活動

- 水曜日 6校時。1単位時間活動又は $\frac{1}{2}$ 単位時間活動
- 児童の計画により自由研究をする。

○教育相談

- 金曜日 6校時、1単位時間活動又は $\frac{1}{2}$ 単位時間活動
- 各学級の計画による。追指導など学業指導も含む。

イ 体力づくり

㊦ ねらい

努力目標の「たくましい体と保健安全の習慣の育成」のために、児童の運動能力、体力の増進、望ましい保健衛生・安全生活の習慣などを身につけさせるようにする。

㊧ 方法と内容

○A型 水曜日 3校時 全校生で行う。

- 集団行動・ラジオ体操・鼓笛パレード

○B型 水曜日 6校時 4・5・6年生でローテーションを組み行う。

- マットとび箱運動・鉄棒運動・陸上運動・水泳・運動施設利用による各部運動・なわとび運動・校庭や路上での持久走。

○業間を利用した運動 2校時終了後

- ラジオ体操・集合整列・行進・ダンス
- 徒手体操・ボールゲーム・なわとび
- 持久走

ウ 児童会活動 「学年（学級）の時間」